

横井孝教授 業績目録

《単著》

- 1 『女の物語』のながれ―古代後期小説史論―』
加藤中道館
一九八四年10月
- 2 『枕草子精釈〔新版〕』
加藤中道館
一九八八年5月
- 3 『源氏から平家へ』（編著）（新典社選書9）
新典社
一九九八年11月
- 4 『円環としての源氏物語』（源氏物語研究叢書1）
新典社
一九九九年6月
- 5 『源氏物語の風景』
武蔵野書院
二〇一三年5月

《共著・共編著》

- 1 『21世紀を創る―男性と女性―』（美尾浩子・馬居政幸・市岡修・佐藤登美と共著）
静岡県企画調整部県民生活局婦人課
一九八八年4月
- 2 『21世紀を創る Part Ⅱ―男性と女性―』（美尾浩子・馬居政幸・市岡修・佐藤登美と共著）
静岡県環境・文化部婦人課
一九九一年4月
- 3 『平安後期物語引歌索引―狭衣・寝覚・浜松―』（久下裕利・堀口悟と共著）
新典社
一九九一年4月

4 『論叢源氏物語1—本文の様相—』(王朝物語研究会編・横井孝責任編集)

新典社

一九九九年6月

源氏物語の本文研究ということと(公条本)の存在と

実践女子大学図書館山岸文庫蔵(公条本)源氏物語(桐壺)翻刻稿(上野英子と共稿)

5 『延慶本平家物語考証1』(新典社)

新典社

「狂言綺語の誤、讀仏乗の因」の典拠延慶本注解に関する覚書・三条『平家物語』の地理観念

野村精一氏蔵(野村宗朔筆写本)『四部合戦状本平家物語・巻四』

6 『延慶本平家物語考証2』(新典社)

新典社

二〇〇一年3月

康頼・成経帰京における異郷譚と「三年」の粹「有王丸油黄嶋へ尋行事」私注

7 『書入れ注記による源氏物語本文のデータベース化に関する研究』

平成10～12年度文部省科学研究助成費(基盤研究(C)(1))研究成果報告書

二〇〇六年3月

(上野英子と共著)研究代表者・横井孝

8 『日本・中国・ヨーロッパ文学における絵入本の基礎的研究及びデータベースの構築』

平成14～17年度科学研究費(基盤研究(A))研究成果報告書

二〇〇八年5月

(高木元・内田保廣・佐藤悟・仲町啓子・宮崎法子・鳥孝行と共著)研究代表者・佐藤悟

- 9 『紫式部集大成（実践女子大学本／瑞光寺本／陽明文庫本）』（久保田孝夫・廣田收と共著）
笠間書院
11月
- 10 『源氏物語の-new研究—本文と表現を考える—』（久下裕利と共編）
新典社
二〇〇九年10月
- 11 『源氏物語の本文と表現—『大成』以後』と『阿部以後』の模索へ向けて—
源氏物語 本文と表現の展望—あとがきにかえて—
実践女子大学図書館所蔵 黒川文庫目録【新版】（実践女子大学図書館・実践女子大学文芸資料研究所編 上野英子・越後敬子・松原哲子と共著）
実践女子大学文芸資料研究所
二〇一一年3月
- 12 『平安後期物語の-new研究—寢覚と浜松を考える—』（久下裕利と共編）
『寢覚』の風景—「しらかはの院」—
寢覚物語 「源氏以後」とその展望—あとがきにかえて—
新典社
二〇一四年5月
- 13 『王朝文学の古筆切を考える—寢覚と浜松を考える—』（久下裕利と共編）
『夜の寢覚』 末尾欠巻部断簡の出現—伝後光厳院筆物語切の正体—
古筆切と機縁と—あとがきにかえて—
武蔵野書院
5月

14 『紫式部集』からの挑発―私家集研究の方法を模索して―(廣田收・久保田孝夫と共著) 笠間書院

二〇一八年3月

『紫式部集』の末尾―作品の終局とは何か―
『紫式部集』における定家本とは何か―表記からの展望―

『紫式部集』の中世

鼎談 『紫式部集』研究の現状と課題 I

(廣田收・久保田孝夫と共稿)

鼎談 『紫式部集』研究の現状と課題 II

(廣田收・久保田孝夫と共稿)

紫式部・紫式部集研究年表(補遺稿)

(久保田孝夫と共稿)

15 『宇治十帖の新世界』(知の遺産シリーズ5)

武蔵野書院

一九七四年7月

(久下裕利と共編)

後篇の物語の構造

八の宮の遺言と大君の進退

《論文》

1 「ゆかり」の構造―朝顔の巻をめぐって―

『平安文学研究』第五二輯

一九七四年7月

2 紫の上の終焉

『駒澤国文』第一二号

一九七五年2月

3 藤壺物語の変容―薄雲の巻の一節をめぐって―

『平安文学研究』第五三輯

6月

4 『寢覚』論―「女の物語」として・序説―

『日本文学』第二五卷第五号

一九七六年5月

- 5 延慶本平家物語と天神縁起説話―付、登蓮法師の役割―
『駒澤国文』第一四号
一九七七年3月
- 6 『寢覚』の世界―「女」から「母」へ―
『平安文学研究』第五八輯
十一月
- 7 駒沢大学図書館沼沢文庫蔵 奉紫式部影前和歌
『駒澤国文』第一五号
一九七八年3月
- 8 右京大夫の「夢」―ある作品論の試み―
『駒澤国文』第一六号
一九七九年3月
- 9 菅原道真から紫式部へ
『日中語文交渉史論叢』桜楓社
4月
- 10 「女」における物語史―『源氏』と『源氏』以後―
源氏物語探究会編『源氏物語の探究・第四輯』風間書房
4月
- 11 古事談「アイタノ城」考
『駒澤国文』第一七号
一九八〇年3月
- 12 「女」の物語の行方―源氏物語宇治論―
『駒澤国文』第一八号
一九八一年3月
- 13 『宇津保』俊蔭論―俊蔭女を考える―
『駒澤国文』第一九号
一九八二年3月
- 14 「女」たちの物語史―『無名草子』論―
『駒澤国文』第二〇号
一九八三年12月
- 15 『伊勢物語』論・断章―〈男の物語〉が産み出すもの―
『平安文学研究』第七〇輯
一九八三年12月
- 16 延慶本平家物語に関する覚え書三条
『駒澤国文』第二一号
一九八四年2月
- 17 源氏物語絵巻伝流史管見―『豊明絵草子』『寢覚物語絵巻』との関連において―
『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』第三五号
一九八五年3月
- 18 円環としての源氏物語―主題・構造・結尾―
『駒澤国文』第二三号
一九八六年2月
- 19 源氏物語受容史管見
『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』第三六号
3月
- 20 光源氏の「昔」・紫の上の「今」―円環としての源氏物語Ⅱ―
『駒澤国文』第二四号
一九八七年3月

- 21 『源氏物語』の表現・断章―「霞の衣」を中心
に―
『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』
第二七号 3月
- 22 延慶本平家物語の仮名表記に関する試論
『駒澤国文』第二五号 一九八八年2月
- 23 源氏物語と作庭秘伝書―六条院の基底―
第三八号 3月
- 24 平家物語と広嗣・玄昉説話
『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』
第三九号 一九八九年3月
- 25 「ゆかり」の物語としての源氏物語
源氏物語研究会編『源氏物語の探究』第一四輯（風
間書房） 9月
- 26 桜町中納言・異名由来のこと
『駒澤国文』第二七号 一九九〇年2月
- 27 延慶本平家物語本文の基礎的研究（I）
『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』
第四〇号 3月
- 28 山岸文庫本『本朝麗藻』
実践女子大学文芸資料研究所『年報』第九号 3月
- 29 延慶本平家物語附載系図について
『季刊ぐんしょ』第三卷二号（続群書類従完成会） 4月
- 30 母性論としての『寢覚物語』
王朝物語研究会編『論集 源氏物語とその前後
1』（新典社） 5月
- 31 かの子の歌と男たち
『短歌』第三七卷一二号（角川書店） 12月
- 32 実践女子大学図書館蔵山岸文庫本『富士の人
穴草子』について
『静大国語』第四号 一九九一年3月
- 33 山岸文庫本『本朝麗藻』（二）
実践女子大学文芸資料研究所『年報』第一〇号 3月
- 34 「明石入道」に関する覚書
王朝物語研究会編『論集 源氏物語とその前後
2』（新典社） 5月

- 35 実践女子大学図書館蔵『苔の衣』（五本） 一九九二年3月
- 36 山岸文庫蔵「伝明融等筆源氏物語」翻刻（2）
—「葵」「賢木」「須磨」—（野村精一・上野英子・
渡邊道子と共稿） 実践女子大学文芸資料研究所『別冊年報Ⅱ』 3月
- 37 紫の上と女三の宮—若菜上・下巻と以後の巻
々— 『光る君の物語』（源氏物語講座・第3巻）（勉誠社） 5月
- 38 螺旋としての源氏物語—竹取物語・長恨歌・
李夫人の引用と作品構造— 王朝物語研究会編『論集 源氏物語とその前後
3』（新典社） 5月
- 39 平家物語の〈草子地〉—延慶本を中心に— 村上學編『平家物語と語り』（三弥井書店） 10月
- 40 比較文学的視点による紫式部論 『静大国語』第六号 一九九三年3月
- 41 物語から平家物語へ—その序説— 『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』
第四三号 3月
- 42 物語文学における〈後家の力〉 王朝物語研究会編『論集 源氏物語とその前後
4』（新典社） 5月
- 43 女人哀話考—小宰相と建礼門院と— 水原一編『平家物語 説話と語り』（あなたが読
む平家物語2）（有精堂） 一九九四年1月
- 44 覚勝院抄管見 実践女子大学文芸資料研究所編『源氏物語古注
釈の世界—写本から版本へ—』（汲古書院） 3月
- 45 延慶本平家物語における白氏文集の引用に関
する覚書（上） 『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』
第四四号 3月

- 46 山岸文庫蔵「伝明融等筆源氏物語」翻刻(3)
 ─「明石」「滯標」「蓬生」「関屋」─(野村精一・
 上野英子・渡邊道子と共稿) 実践女子大学文芸資料研究所『別冊年報Ⅲ』 3月
- 47 源氏物語の基底―准拠と引用の方法をめぐる
 断章― 王朝物語研究会編『研究講座 源氏物語の視界
 1・准拠と引用』(新典社) 3月
- 48 寢覚物語引歌索引補遺稿 王朝物語研究会編『論集 源氏物語とその後
 5』(新典社) 5月
- 49 延慶本平家物語における白氏文集の引用に関
 する覚書(下) 『静岡大学教育学部研究報告(人文・社会科学篇)』 一九九五年3月
 第四五号
- 50 紫式部の心―その二元論についての試論― 『静岡大学教育学部研究報告(人文・社会科学篇)』 一九九六年3月
 第四六号
- 51 重衡物語の輪郭―延慶本平家物語の語りと本
 文― 水原一編『古文学の流域』(新典社) 4月
- 52 鎌倉物語の構造と説話の位相 『説話文学研究』第三一号 8月
- 53 『少将滋幹の母』の位相 『静岡大学教育学部研究報告(人文・社会科学篇)』 一九九七年3月
 第四七号
- 54 「まじふ」人々と浮舟と 王朝物語研究会編『研究講座 源氏物語の視界
 5―薫から浮舟へ―』(新典社) 5月
- 55 読みの許容圏ということ―谷崎潤一郎の作品
 を中心として― 『静大国語』第一〇・一一合併号 一九九八年3月
- 56 山岸文庫蔵『公条本源氏物語』―解題ならび
 に「帚木・空蟬」影印― 実践女子大学文芸資料研究所『年報』第一八号 一九九九年3月

- 57 物語・終焉のかたち——『狭衣物語』結尾の位相——
実践女子大学文芸資料研究所編『物語史研究の方法と展望（論文篇）』（実践女子大学文芸資料研究所）
3月
- 58 物語から日記へ、日記から物語へ
王朝物語研究会編『研究講座 王朝女流日記の視界』（新典社）
6月
- 59 平家物語の「構想」と「構造」——「驕レル人」「猛キ者」をめぐる——
『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』第五〇号
二〇〇〇年3月
- 60 源氏物語本文管見——「御」のよみと諸本の関係——
『実践国文学』第五八号
10月
- 61 「検非違使別当平清盛」の背景
『実践女子大学文学部紀要』第四三集
二〇〇一年3月
- 62 山岸文庫蔵『公条本源氏物語』のAMS14C年代（小田寛貴・野村精一・中村俊夫・上野英子・丹生越子と共著）
『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』XII号
3月
- 63 技術としての源氏物語絵巻
久下裕利編『源氏物語絵巻とその周辺』（新典社）
4月
- 64 子どもの領分（1）——源氏物語「十ばかり」のころ——
『実践国文学』第六〇号
10月
- 64 潮廻舎文庫蔵『平家物語』整版本掌録（1）
『実践女子大学文学部紀要』第四四集
二〇〇二年3月
- 65 （下田歌子）『源氏物語講義 若紫』解説
下田歌子『源氏物語講義 若紫』（実践女子学園）
3月
- 66 加速器質量分析計による山岸文庫蔵『伝公条本源氏物語』の14C年代測定（小田寛貴・野村精一・中村俊夫・上野英子・丹生越子と共著）
実践女子大学文芸資料研究所『年報』第二一号
3月

- 67 常磐松文庫蔵『狭衣文談』翻刻(二)——巻第二之上——
実践女子大学文芸資料研究所『別冊年報』VI号
3月
- 68 子どもの情景——『源氏物語』の点景から——
『国語と国文学』第七九巻第五号
5月
- 69 「ならの京」——『伊勢物語』初段の風景——
王朝物語研究会編・仁平道明責任編集『論叢伊勢物語2——歴史との往還——』(新典社)
5月
- 70 子どもの領分(2)——物語、おとなと子どもとの間——
『実践国文学』第六二号
10月
- 71 源氏物語本文臆見——「一字不違」の近辺と外周と——
『実践国文学』第六三号
二〇〇三年3月
- 72 潮廻舎文庫蔵『平家物語』整版本掌録(2)
『実践女子大学文学部紀要』第四五集
3月
- 73 常磐松文庫蔵『狭衣文談』翻刻(三)——巻第二之下——巻四之上——(一文字昭子と共稿)
実践女子大学文芸資料研究所『別冊年報』VII号
3月
- 74 源氏物語本文小見——薄雲の巻をめぐる諸本のすがた——
『実践国文学』第六四号
10月
- 75 丸谷才一『輝く日の宮』を読む——『源氏物語』の商品化の方法——
『実践国文学』第六五号
二〇〇四年3月
- 76 常磐松文庫蔵『狭衣文談』翻刻(四)——巻四之下——(一文字昭子と共稿)
実践女子大学文芸資料研究所『別冊年報』VIII号
3月
- 77 『紫式部集』実践女子大学本管見——その形態から研究の現状を考える——
『実践国文学』第六六号
10月
- 78 軍記・年齢記述の意味——「十三歳」表記を軸として——
『実践国文学』第六七号
二〇〇五年3月

- 79 物語版本の挿絵の転用・流用―『源氏物語』『伊勢物語』などを通して―
『実践女子大学文学部紀要』第四七集 3月
- 80 常磐松文庫蔵『狭衣文談』正誤表ならびに校異表(一)
実践女子大学文芸資料研究所『別冊年報』IX号 3月
- 81 六条院の風景―『源氏物語』の庭園を再構築する―
坂本共展・久下裕利編『源氏物語の新研究―内なる歴史性を考える―』(新典社) 9月
- 82 物語文学整版本の挿絵における転用・流用の問題―山本春正『絵入源氏』を通して―
『実践国文学』第六八号 10月
- 83 谷崎潤一郎「検印」による略年譜のころみ
『実践国文学』第六九号 二〇〇六年3月
- 84 常磐松文庫蔵『狭衣文談』正誤表ならびに校異表(二)
実践女子大学文芸資料研究所『別冊年報』X号 3月
- 85 源氏物語版本挿絵考―その基礎的研究として―
久下裕利・久保木秀夫編『平安文学の新研究―物語絵と古筆切を考える―』(新典社) 9月
- 86 谷崎潤一郎「検印」による略年譜のころみ・補正
『実践国文学』第七〇号 10月
- 87 「未央柳」のゆくえ―下田歌子『源氏物語講義』の周囲をめぐる考察―
日向一雅・仁平道明編『源氏物語の始発―桐壺巻論集―』(竹林舎) 11月
- 88 実践女子大学本『紫式部集』奥書考―年紀への疑惑をめぐって―
『国語と国文学』第八四巻第一号 二〇〇七年1月
- 89 物語絵の「かたち」に「意味」はあるのか(平安文学における場面生成研究プロジェクト第4回研究会・基調報告10)
国文学研究資料館文学形成研究系「平安文学における場面生成研究」プロジェクト編『平安18年度研究成果報告・物語の生成と受容②』(国文学研究資料館) 2月

- 90 源氏物語版本挿絵考―その画像データベースの必要性―
『国文学研究資料館紀要・文学研究篇』第三三号 2月
- 91 紫式部と鴨川の風景
『実践国文学』第七一号 3月
- 92 源氏物語「六条院」の読み方
明治大学学術フロンティア推進事業「日本古代文化における文字・画像・伝承と宗教の総合的研究」
『古代学研究所紀要』四号 3月
- 93 源氏物語関連画像集成稿―そのデータベース構築に向けて―
実践女子大学芸芸資料研究所『年報』第二六号 3月
- 94 鎌倉・室町時代の『源氏物語』―『夜寝覚物語』『とりかへばや』などを通して―
三角洋一編『講座源氏物語研究 第四卷』鎌倉・室町時代の源氏物語』(おうふう) 6月
- 95 『寝覚』の風景―「広沢の池のわたり」―
永井和子編『源氏物語へ 源氏物語から― 中古文学研究24の証言―』(笠間書院) 9月
- 96 山本春正『絵入源氏物語』―その挿絵はいかにして可能になったか―
『国文学・解釈と教材の研究』《特集・絵で読む源氏物語》第五三巻第一号(學燈社) 二〇〇八年1月
- 97 国文学研究資料館本『源氏物語歌合絵巻』の紹介―実践女子大学常磐松文庫本『住吉物語絵巻』にふれて―
実践女子大学芸芸資料研究所『年報』第二七号 3月
- 98 源氏物語と近衛府の物語―右大将と右中将―
日向一雅編『王朝文学と官職・位階』(平安文学と隣接諸学4)(竹林舎) 5月
- 99 源氏物語と宮廷絵画の余光―新出『源氏物語歌合絵巻』の紹介と翻刻―
仁平道明編『王朝文学と東アジアの宮廷文学』(平安文学と隣接諸学5)(竹林舎) 5月

- 100 紫式部にとって「日記」とは何だったか―「水
火の責め」による位相、その序説―
秋山虔・福家俊幸編『紫式部日記の新研究―表
現の世界を考える―』（新典社）
5月
- 101 源氏物語の「六条院」―「大規模造営の時代」
の文学―
日向一雅編『源氏物語と平安京―考古・建築・儀
礼―』（青簡舎）
7月
- 102 実践女子大学本『紫式部集』の現状、その
他―その擦り消し痕・『紫式部集大成』拾遺な
ど―
『実践国文学』第七四号
10月
- 104103 実践女子大学本『紫式部集』の現状報告
源氏物語の一〇〇年―「下田講義」から「阿
部以後」へ―
同
二〇〇九年3月
- 105 文芸資料研究所蔵絵入版本『栄花物語』（二）
―略解題・翻刻・影印―
実践女子大学文芸資料研究所『別冊年報』XII号
3月
- 106 『寝覚』の風貌―「源氏以後」の世界へ―
秋山虔編『平安文学史論考―武蔵野書院創立90
周年記念論集』（武蔵野書院）
12月
- 108107 『寝覚』（夜の寝覚）結尾の風景
『国文学』解釈と鑑賞』第七五卷第三号
二〇一〇年3月
- 109 常磐松文庫蔵 奈良絵本栄花物語三冊
実践女子大学文芸資料研究所『年報』第二九号
3月
- 110 実践女子大学蔵 明融本源氏物語の現状報告
と新提言 Ⅲ』（科学研究費補助金平成一九年度
研究成果報告書）
『中古文学』第八五号
6月
- 形態と伝流から『紫式部集』を見る
（シンポジウム『紫式部集』研究の現在）

111	「大規模造宮の時代」の一風景―『源氏物語』の時代のある喪失をめぐって―	仁平道明編『源氏物語と東アジア』（新典社）	9月
112	父系の指・母系の唇―松本清張の原形質をもとめて―	『実践国文学』第七八号	10月
113	薫をめぐる風景―「ほうさうじのわたり」・巨椋の池―	森一郎・岩佐美代子・坂本共展編『源氏物語の展望 第八輯』（三弥井書店）	10月
114	『栄花物語』述作者のバイアス	『むらさき』（紫式部学会編輯／武蔵野書院）	12月
115	『更級日記』孝標をめぐる風景―その大いなる「凡庸」について―	福家俊幸・久下裕利編『王朝女流日記を考える―追憶の風景』（武蔵野書院）	二〇一一年1月
116	草稿と注釈的研究と―谷崎潤一郎『夢の浮橋』―	『実践国文学』第七九号	3月
117	『資料紹介』物語絵 ひとつの形象―実践女子大学文芸資料研究所蔵『伊勢物語の哥絵』―小宰相・通盛の物語と『狭衣物語』	久下裕利編『物語絵・歌仙絵を考える―変容の軌跡』（武蔵野書院）	5月
119	定家本『紫式部集』と定家筆断簡―実践女子大学本の現状報告・二―	『国立能楽堂』第三三四号	5月
120	黒川文庫目録【新版】追補稿	実践女子大学文芸資料研究所『年報』第三二号	二〇一二年3月
121	紫式部集定家本表記考―その位相検討への序説として―	同	3月
		研究代表者・今西裕一郎『日本古典籍における【表情報報学】の基盤構築に関する研究』（科学研究費補助金基盤研究（A）二〇一一年度研究成果報告書）	

- 122 講義 源氏と源氏以後——第一講・「文学」と「効用」の問題——
『実践国文学』第八二号 10月
- 123 紫式部集の末尾をめぐる試考——古典作品の終局の相というもの——
『実践国文学』第八三号 二〇一三年3月
- 124 講義 源氏と源氏以後——第二講・紫式部と孝標女の問——
『実践国文学』第八四号 10月
- 125 「宇治十帖のうち第一の詞」——源氏物語における注釈世界——
日向一雅編『源氏物語 注釈史の世界』（青簡舎） 二〇一四年2月
- 126 紫式部集古本系表記考——「かへし」「返し」「返」——
研究代表者・今西裕一郎『日本古典籍における【表記情報学】の基盤構築に関する研究Ⅱ』（科学研究費補助金基盤研究（A）二〇一二年度研究成果報告書） 2月
- 127 かな字母による表記情報学の課題
研究代表者・今西裕一郎『日本古典籍における【表記情報学】の基盤構築に関する研究Ⅲ』（科学研究費補助金基盤研究（A）二〇一三年度研究成果報告書） 3月
- 128 『夜の寢覚』末尾欠巻部復元の問題点——新出断簡分析の方法を模索して——
『実践国文学』第八六号 10月
- 129 講義 源氏と源氏以後——第三講・藤原定家という存在——
『実践国文学』第八七号 二〇一五年3月
- 130 実践女子大学所蔵 源氏物語古筆切目録稿
実践女子大学文学資料研究所『年報』第三四号 3月
- (一)

- 131 源氏物語の本文異同と表記情報―かな字母による表記情報は可能か―
 研究代表者・今西裕一郎『日本古典籍における【表記情報】の基盤構築に関する研究Ⅳ』（科学研究費補助金基盤研究（A）二〇一四年度研究成果報告書）
 3月
- 132 桐壺帝をめぐる「風景」―『源氏物語』のひとつの情景として―
 田坂憲二・久下裕利 編『知の挑発②／源氏物語の方法を考える―史実の回路―』（武蔵野書院）
 5月
- 133 『紫式部集』注釈のために―「注解」の方法への試考―
 『実践国文学』第八八号
 10月
- 134 講義 源氏と源氏以後―第四講・平安後期物語の可能性―
 『実践国文学』第八九号
 二〇一六年3月
- 135 実践女子大学所蔵 源氏物語古筆切目録稿
 実践女子大学文芸資料研究所『年報』第三五号
 3月
- 136 源氏物語古筆切事始―筆者不明の断簡を読む―
 『実践国文学』第九〇号
 10月
- 137 山岸徳平博士の現写本考―実践女子大学図書館山岸文字蔵本識語編年資料から―
 『実践国文学』第九一号
 二〇一七年3月
- 138 実践女子大学所蔵 源氏物語古筆切目録稿
 実践女子大学文芸資料研究所『年報』第三六号
 3月
- 139 山岸徳平博士の物語研究一斑―実践女子大学図書館山岸文字蔵本識語編年資料から―
 『実践国文学』第九二号
 10月
- 140 源氏物語本文研究と古筆切研究のあわい
 『実践国文学』第九三号
 二〇一八年3月

- 141 実践女子大学図書館山岸文庫蔵本奥書識語編
年集成
実践女子大学文芸資料研究所『年報』第三七号
3月
- 142 源氏物語の「自然」と「表現空間」―野村精
一の仕事をめぐって―
『実践国文学』第九四号
10月
- 144 143 物語の本義(一)
物語関係古筆切目録稿
『実践国文学』第九五号
二〇一九年3月
- 145 (別府節子・久下裕利と共稿)
物語の本義(二)
実践女子大学文芸資料研究所『年報』第三八号
3月
- 『実践国文学』第九六号
10月
- 《時評・書評》
- 1 源氏物語(巻論・人物論・表現論など)
全国大学国語国文学会『文学・語学』第一四四号
一九九五年3月
- 2 狭衣物語の本文研究を概観し、近刊専著の紹
介に及ぶ
『実践国文学』第五九号
二〇〇一年3月
- 3 久下裕利著『物語の廻廊―源氏物語』から
の挑発―話型論のあらたな一歩へ
『国文学研究』第一三五集(早稲田大学国文学会)
二〇〇一年10月
- 4 中世―随想として―
『文学・語学』(全国大学国語国文学会)第一八四号
二〇〇六年3月
- 5 書評 高田信敬著『源氏物語考証』
『国語と国文学』第八八卷第三号
3月
- 《項目執筆》
- 1 「平資盛」「平知章」「伊東祐親」「山鹿秀遠」
『源平時代人物ものしり事典』(新人物往来社)
一九七九年4月
- 2 「平資盛」「平知章」「伊東祐親」「山鹿秀遠」
『総集編 源平人物ものしり百科』(別冊歴史読本
特別増刊一九卷二号)(新人物往来社)
一九九四年1月

- 3 「源義家」「源義経」「源義朝」「源義仲」「源義光」
朝倉治彦・三浦一郎編著『世界人物逸話大事典』
(角川書店) 一九九六年2月
- 4 「じんぶつこしょう(人物呼称)」「たまかずら
(玉鬘)」
林田孝和・植田恭代・竹内正彦・原岡文子・針本
正行・吉井美弥子編集『源氏物語事典』(大和書房)
小町谷照彦編『必携』源氏物語を読むための基
礎百科』(學燈社) 二〇〇三年11月
- 5 「成立と構成」「表現と方法」
磯古書院 二〇〇五年5月
- 6 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈
第一本(巻二)』(項目執筆)
磯古書院 二〇〇六年5月
- 7 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈
第一末(巻二)』(項目執筆)
磯古書院 二〇〇七年8月
- 8 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈
第二本(巻三)』(項目執筆)
磯古書院 二〇〇八年10月
- 9 『源氏物語团扇画帖』第46図〜第54図「明融
本『源氏物語』」「源氏物語歌合絵巻」『源
氏のゆらい』
国文学研究資料館編『源氏物語千年のかがやき
―立川移転記念特別展示 図録―』(思文閣出版)
二〇〇九年5月
- 10 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈
第二中(巻四)』(項目執筆)
磯古書院 二〇一〇年11月
- 11 「恵美押勝」「玄昉」「小宰相」「慈恵」「輔仁親
王」「平通盛」「登蓮」「髑髏尼」「源氏物語」「狭
衣物語」『巖島神社蔵平家物語断簡』
磯古書院 二〇一〇年11月

- 12 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈
第二末(巻五)』(項目執筆) (汲古書院) 二〇一一年4月
- 13 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈
第三本(巻六)』(項目執筆) (汲古書院) 二〇一二年5月
- 14 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈
第三末(巻七)』(項目執筆) (汲古書院) 二〇一三年5月
- 15 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈
第四(巻八)』(項目執筆) (汲古書院) 二〇一四年5月
- 16 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈
第五本(巻九)』(項目執筆) (汲古書院) 二〇一五年10月
- 17 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈
第五末(巻十)』(項目執筆) (汲古書院) 二〇一六年11月
- 18 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈
第六本(巻十二)』(項目執筆) (汲古書院) 二〇一八年3月
- 19 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈
第六末(巻十二)』(汲古書院) (項目執筆) (汲古書院) 二〇一九年3月

《その他》

- 1 幻の巻の構造―明石の君の登場をめぐる― 『論輯』第一号(駒澤大学大学院) 一九七三年2月
- 2 幻の巻の構造続論 『論輯』第二号(駒澤大学大学院) 一九七四年2月
- 3 「宇治」序説―「ゆかり」の構造― 『論輯』第三号(駒澤大学大学院) 一九七五年2月
- 4 〈研究ノート〉紫式部日記冒頭の解釈 『論輯』第四号(駒澤大学大学院) 一九七六年2月

- 5 『とはずがたり』 語彙二つ
 『論輯』第五号（駒澤大学大学院）
 一九七七年2月
- 6 『女の物語』のながれ』 楽屋話
 『図書館通信』第七二号（静岡大学付属図書館）
 一九八五年7月
- 7 「講座」に参加する女性たち―その現在と将来―
 『母と生活』（社）静岡県出版文化会）第三六卷
 一九九三年2月
- 8 『駒澤國文』による半自伝
 『駒澤國文』第三〇号
 第二号
 一九九六年7月
- 9 光源氏になれなかった男
 『りんどう』（実践国文同窓会）第二二号
 2月
- 10 平忠度の背中に見えるもの―『平家物語』の陰翳―
 『りんどう』（実践国文同窓会）第二六号
 一九九六年7月
- 11 大塚楠緒子の生と作品
 『りんどう』（実践国文同窓会）第二六号
 二〇〇二年7月
- 12 『源氏物語講義 若紫』に寄せて―「解説」に書き残したこと、など―
 『Library Mate』（実践女子大学図書館）第二八号
 7月
- 13 上村松園と源氏物語
 『りんどう』（実践国文同窓会）第二九号
 二〇〇四年7月
- 14 源氏物語の世界―藤壺の宮の恋は書かれていないか―
 『りんどう』（実践国文同窓会）第三〇号
 二〇〇五年7月
- 15 火事と「大規模造営の時代」の文学
 『中古文学会関西西部会会報』第六号
 二〇〇八年3月
- 16 三谷博士の葉書をご紹介します
 『りんどう』（実践国文科会）第三三号
 7月
- 17 シンポジウム「源氏物語の古筆切」
 実践女子大学芸資資料研究所『年報』第二九号
 二〇一〇年3月
 （田中登・別府節子・池田和臣・今西祐一郎・横井孝（司会））
- 18 座談会「王朝物語の古筆切」
 『武蔵野文学』（武蔵野書院）二〇一〇増刊夏号
 5月
 （池田和臣・加藤昌嘉・久下裕利・久保木秀夫・小島孝之・横井孝（司会））

- 19 座談会「王朝物語の絵画―『竹取』『伊勢』を中心に―」
 (上原作和・久下裕利(司会)・針本正行・山本登朗・横井孝)
 『武蔵野文学 Wide』01号(武蔵野書院) 9月
- 20 座談会「黒川文庫の過去・現在・未来」(加藤昌嘉・久保木秀夫・久保田孝夫・田中登・佐藤悟・上野英子・横井孝(司会))
 実践女子大学文芸資料研究所『年報』第三〇号 二〇一一年3月
- 21 座談会「王朝女流日記の作者―もう一つの顔―」
 『武蔵野文学』二〇一一年増刊夏号(武蔵野書院) 5月
- 22 「研究対談『隣組の学術交流協定』」(今西裕一郎と共稿)
 『国文研ニュース』第二五号(国文学研究資料館) 10月
- 23 座談会「王朝物語の官職について―その歴史社会的背景―」
 『座談会 王朝物語の官職について―その歴史社会的背景―』(武蔵野書院) 二〇一二年5月
- 24 座談会「夜の寢覚」(大槻福子・久保木秀夫・中川照将・仁平道明・横井孝・横溝博(司会))
 『武蔵野文学』二〇一四年増刊春号(武蔵野書院) 二〇一四年5月
- 25 『源氏物語』と古筆切
 実践女子大学編『実践女子大学百二十周年展覧会図録/宮廷の華 源氏物語』
 6月
- 26 講演記録 源氏物語がもたらした縁―紫式部と孝標女をつなぐもの―
 『りんどう』(実践国文同窓会) 第四〇号 二〇一五年7月
- 27 国文学科一〇〇周年に向けて
 同 同

28 (メッセージ) 本文研究の近未来と集積の意味 『国文研ニュース』第四九号 (国文学研究資料館) 二〇一七年10月

29 山岸文庫本、奥書・識語のなかの近未来 『中古文学』(第百号記念号) 11月

30 山岸徳平博士の『源氏物語』研究一斑―実践 『中古文学会関西部会会報』第一六号 二〇一八年3月

女子大学図書館蔵山岸文庫蔵識語調査から―

〈付記〉

二〇二〇年前半には、横井の関わった仕事として、

①実践女子大学編『実践女子学園創立一二〇周年記念

実践女子大学所蔵貴重書図録』(実践女子大学文芸資

料研究所・武蔵野書院、二〇二〇年二月)

②田中登・横井孝編(中葉芳子・佐々木孝浩・高田信敬・

針本正行著)『源氏物語 古筆の世界』(武蔵野書院、

二〇二〇年九月)

③久下裕利・横井孝編『紫式部日記・紫式部集の新世界』

(武蔵野書院、二〇二〇年五月)

④横井「源氏物語鎌倉期本文の可能性」(中古文学会関

西支部編『源氏物語 本文研究の可能性』和泉書院、

二〇二〇年五月、所収)

などが世に出る予定。この他にも、ここ一〇年来知友と約
束し、幾分かは形になりつつあるものもある。しかし、本
稿執筆時(二〇一九年一二月)にはまだ画に描いた餅であ
る。